



【プロフィール】
石原正道 (いしはら・まさみち)
1942年栃木県宇都宮市生まれ。
68年日本歯科大学卒業、72年同
大学大学院修了、歯学博士。75
年東京都日野市にて開業。一般社
団法人二科会写真部会員で2017
~20年には理事を務める。公益
財団法人日本写真協会会員、フ
ォトグループ「こもれび」主宰。写
真展、個展多数。診療所にはギャ
ラリー「道」を併設。



次に、コロナ禍や最近の歯科
医療に関する問題について、
歯科医師としての意見を。
▼石原さん 歯科と感染症の関
係で、私が以前から一番警戒し
ていたのは劇症肝炎です。その
ため、開業当初からスタンバイ
ドプリコーションを踏まえ、感
染症対策には万全を尽くしまし
た。そのため、厄介なコロナ禍
対策は、目の前がすく山で、公
園の中にあるような自然の環境
に立地する診療室なので、徹底
的な自然換気を行い対処してい
ます。ただ、変異するコロナウ
イルスには対応できる術はあり
ません。それから、歯科技術と
の関連ですが、CAD/CAM
冠などの普及である程度の適
合はこの種の機器で可能です。し
かし、歯科工物は、優秀な歯
科技工士が製作する技工物には
及びません。これを完璧に機械
だけで行うことは無理です。ま
た、歯科用金属の価格が高騰し
ており、そのような材料をいつ
まで使えるのか疑問です。代替
の金属材料の開発と歯科技工士
を守り、今世紀まで目まぐるし
い発展を遂げた歯科医療の
将来が、もっと明るいものにな
るよう望んでいます。

現在、あるいはこれからの歯
科医師に必要なことについて
お考えをお聞かせください。
▼石原さん 健康な体の維持に
は、口から入る食べ物很重要で
す。食生活の提案ができ、発信
できる歯科医師がもっと多くな
ってほしいと思います。ウエス
トン・A・ライスの著書「食
生活と身体の退化」にあるス
のロイ・チェンタール峡谷の人

々から学んだこと、そして医師
の古守豊甫が見つけ出した山梨
県桐原村の事実を、少しでも美
食に走ると多くの患者さんに伝
えてほしいと思います。私も健
に老いることを目標としていま
すが、どんなに医療が近代化
しても、患者さんの言動や表情、
皮膚、歯肉、舌の色や性状、目
の輝きや色等の変化を捉える観
察力が必要だと思えます。わす
かな変化の中に重篤な疾患のシ
グナルが隠れていることが多い
ですから。

先生にとって大事な言葉は、
▼石原さん 写真とも関連しま
すが、「静と動」です。世間では
「動即静」と言っていると思
います。動くものほど静かに見
える。コマは、勢よく回るほど
ど、静止しているかのように見
えるでしょう。「静」的な生き
方は年齢が上がるにつれ向上
します。「動」的な生き方は年
齢が高むにつれ共に衰えます。
このことを念頭に生きてほしい
でしょうか。若い時から自力で
取り組み続けていることであれ
ば、質も向上すると思います。
今日貴重なお話しを、目を
見張る作品をお見せいただき
ありがとうございました。

インタビューについてのご感想
は、氏名と連絡先を明記のうえ、
info@tokyo-sk.comへお寄せく
ださい。

過去のインタビュー
は、当協会HPから
ご覧になれます。



「道」より



Interview 歯科医師、写真家 石原 正道さん

初めて、歯科医師を志したき
▼石原正道さん 私の父は、宇
都宮の陸軍病院で軍歯科医を務
める傍ら、趣味の写真にも熱心
に取り組んでいました。終戦後
は宇都宮市内で開業しました
が、自宅兼診療所には暗室があ
り、カメラはイカを愛用して
いました。植物栽培にも熱心
で、食糧難の時代にタリアに凝
り、その後、シクラメン、ラン
を手がけていました。私は、そ
んな父の手伝いが大好きで、歯
科のことは、同前の小僧習わぬ
経を誦む「式で身につけ、小
学三年生の時、作文に「一人に
なったら歯科医師になりたい」
と書いたことを覚えています。
その後、紆余曲を経て日本歯
科大学に進学。補綴学の教授の
アドバイザーを受け大学院に進
み、その教授について臨床にも
携わりました。学生時代は油絵
を描いたり、サッカーにも夢中
でした。
—写真に取り組むことになつた
きっかけは。
▼石原さん 私は写真に惹かれ、
本格的に取り組み始めたのは、
小学校高学年の頃でした。写
真雑誌「フジカメラ」で、
ベネチアの建物間隙を、瞬
び去る鳥の影を映した奈良原一
高氏の作品を見た時、大きな衝
撃を受けました。その後、自分
の感性にしたがって撮り続けま
した。普段、私が撮影する獲り
多々は、実はこの診療所の周り
に生える草花ほとんどです。普
通、それは雑草と見過ごされ
がちですが、私はじっくり観察
し、ほぼ毎日のように草と向き
合い撮影を続けています。故
となりませんが、二科会写真部
を立ち上げた林忠彦、秋山庄太
郎、早田雄二、大竹省二の各氏
とも交流がありました。秋山氏
は私の歯科診療所に通院してい
ました。ただ、これらの高名な
方々が亡くなると、急に空洞が
でき、運営支障をきたすこと
が増えました。それを埋め
られるかが、今後の大きな課題
です。
—感性のことですが、撮影の
技術と感性についてのお考え
を。
▼石原さん 写真の才能は何
か、優れた才能は「育む」の
か、教える力をつけることには
限界があります。そこから先
は、本人の持つ「感性」であ
り、感性は本人が自ら磨く他、
ありません。技術的側面を教
えるにしても、今はデジタルカ
メラの時代で、カメラが何でも
やってくれます。つまり、これ
までは写真家が感服してつて
きたことを、今はカメラがさら
りとして解決しています。
感性が豊かなアマチュアが驚
くようないい写真を撮ってしま
う。今は、そんな時代です。
私が主宰する「こもれび」が発
足後、二十年以上が経ちまし
た。メンバーは20人ほど、
二科展の会友が七名と、多くの
入選者が出るまでに成長してい
ます。グループの写真展は二年
に一度と決めており、焦らず、
じっくりとした心の作業を残す
よう指導しています。そして、
技術に身を付けた後は、各々が
本質に迫るための感性を、伸
ばすのか大事に育てていきな
い、思い、指導に当たっていま
す。
—もう一歩踏み込みますが、先
生にとっての感性とは。
▼石原さん 一年を超えてコ
ロナ禍ですが、人々は皆、心の安
心や安らぎを求めています。
「こもれび」でも、皆さんに
は「未来に希望を持ってほしい
大事だ」と話し、「コロナの記
録写真はかり撮っても仕方な
い。そのような暗いイメージの
も、撮る努力をしたいと思います。

▼石原さん 健康な体の維持に
は、口から入る食べ物很重要で
す。食生活の提案ができ、発信
できる歯科医師がもっと多くな
ってほしいと思います。ウエス
トン・A・ライスの著書「食
生活と身体の退化」にあるス
のロイ・チェンタール峡谷の人

▼石原さん 写真の才能は何
か、優れた才能は「育む」の
か、教える力をつけることには
限界があります。そこから先
は、本人の持つ「感性」であ
り、感性は本人が自ら磨く他、
ありません。技術的側面を教
えるにしても、今はデジタルカ
メラの時代で、カメラが何でも
やってくれます。つまり、これ
までは写真家が感服してつて
きたことを、今はカメラがさら
りとして解決しています。
感性が豊かなアマチュアが驚
くようないい写真を撮ってしま
う。今は、そんな時代です。
私が主宰する「こもれび」が発
足後、二十年以上が経ちまし
た。メンバーは20人ほど、
二科展の会友が七名と、多くの

▼石原さん 健康な体の維持に
は、口から入る食べ物很重要で
す。食生活の提案ができ、発信
できる歯科医師がもっと多くな
ってほしいと思います。ウエス
トン・A・ライスの著書「食
生活と身体の退化」にあるス
のロイ・チェンタール峡谷の人

「技術と感性と観察力」
ファインダー越しに見る写真と文化そして歯科

「叢(KUSAMURA)」より